

## 共同公開シンポジウム

# 島嶼地域における言語研究の可能性と課題

## POSSIBILITIES AND CHALLENGES FOR LINGUISTIC STUDIES IN THE ISLAND REGION

平成31年3月14日（木曜日）14:00～18:00（13:30開場）

沖縄県立博物館・美術館 博物館講座室

同時通訳があります

司会；宮平勝行

開会の挨拶 狩俣繁久

石原昌英（琉球大学 国際地域創造学部）

琉球諸語の危機とは？—UNESCOの基準に当てはめて—

Assessing Vitality and Endangerment of the Ryukyuan Languages—Applying Factors of UNESCO (2003)

當山奈那（琉球大学 人文社会学部）

危機言語としての琉球諸語と音声教材の作成

—持続可能な研究と実践をめざして—

Ryukyuan Languages as Endangered and Creating Audio Texts

:Towards Sustainable Research and Practices

狩俣繁久（琉球大学 島嶼地域科学研究所）

島嶼言語としての琉球語が内包する系統樹研究の可能性

The Possibilities of Phylogenetic Tree Studies in Ryukyuan Languages Research

Nicholas Evans（Australian National University）

A fragile archipelago of worlds : what endangered languages have to tell us

たくさんの世界から成り立つ脆弱な列島：危機言語は我々に何を語るのか

ディスカッション

石原昌英・當山奈那・狩俣繁久・ニコラスエヴァンス

長田俊樹（総合地球環境学研究所） コメンテーター

琉球大学 島嶼地域科学研究所プロジェクト

「自立的島嶼社会の創生に向けた『島嶼地域科学』の体系化

—島嶼地域研究・教育の拠点形成—

平成30年度琉球大学学長PIプロジェクト

「琉球諸語における『動的』言語系統樹システムの構築をめざして」

JSPS 科研費 17H06115

「言語系統樹を用いた琉球語の比較・歴史言語学的研究」